奈文研ニュース

No.28 Mar.2008

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.jp/

カンボジアにおける調査

カンボジアの内戦終結を契機として始まった共同研究事業も、早いもので15年目が過ぎようとしています。五里霧中で始まったこの事業も、周囲のご協力を得ながら順調に進み、バンテアイ・クデイ遺跡での探査やタニ窯跡群の調査を経験し、2001年度からは西トップ寺院という遺跡を対象に定め、調査研究を進めています。

今年度も７月と12月に考古班が発掘調査をおこなうとともに、１月には建築班の調査もおこなわれました。まず考古班は今年度から中央塔の近くにトレンチを設定し、建立年代や地下構造の把握を目指しています。２回の調査の結果、今見る中央塔の下では確たる掘り込み地業等は発見されませんでしたが、中央塔が上下２層の整地層の上に築かれていることがわかりました。整地層から出土した中国産と思われる白磁などから、今見る石造建造物は14世紀以後に建立されたことがわかりました。ただ下層の整地層からは12世紀代と思われる青白磁合子が出土しており、何世紀にもわたる改築の歴史を秘めていることが明らかになりました。

2008年１月におこなわれた建築班の調査では、詳細な図面を作ることを目的とした実測がおこなわれました。実測をしながら各部の細かな観察をおこない、中央塔と南北小塔の細かな様式差を明らかにするとともに、それぞれの建立年代の違いを推定することも可能になります。

今年度にはこうした研究所の調査研究に、所外から大きなご支援をいただいたことも特筆されます。高松塚古墳石室の解体事業で文化庁や研究所の活動に支援をいただいた(株)タダノと(株)飛鳥建設から、カンボジアにおける日本の調査修復活動に対し、車両の無償贈呈の申し出があり、2008年１月31日、(株)タダノ志度工場において贈呈式典がおこなわれました。今回の機材提供によって調査研究活動が飛躍的に進むとともに、将来の事業展開に新たな方向性を与えることとなりました。

（飛鳥資料館　杉山　洋）

2007年12月の調査風景

（株）タダノによる車両贈呈式典